

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料（平成 20 年 9 月）

仙台管区气象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

活動概況

- ・地震や微動の発生状況（図 2）
火山性地震は少ない状況が続いています。
火山性微動は観測されませんでした。
- ・熱活動の状況（図 3～4、表 1）
10 日に^{めだけ}女岳山頂部を中心に現地調査を実施しました。赤外熱映像装置¹⁾による地表面温度分布及びサーミスタ温度計²⁾による噴気地熱地帯等の観測結果は、前回（2007 年 10 月）と比較して変化はなく落ち着いた状態でした。

- 1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する機器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。
- 2) サーミスタ温度計は、半導体の電気抵抗が温度変化する性質を利用して温度を測定する測器です。

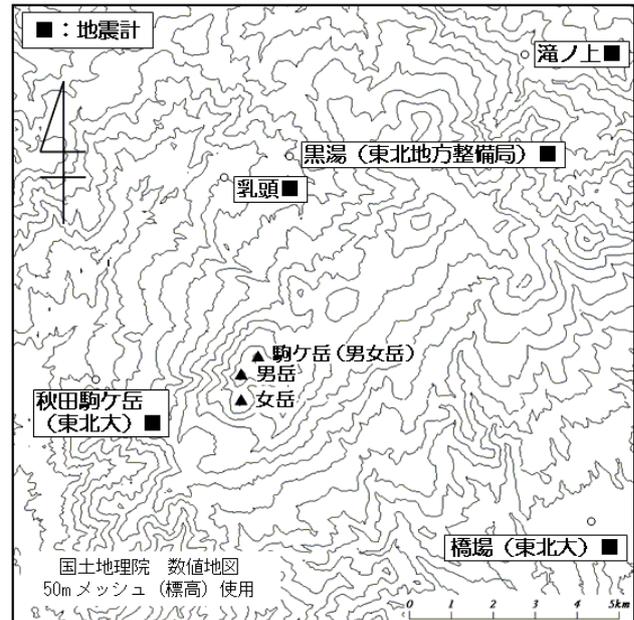


図 1 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

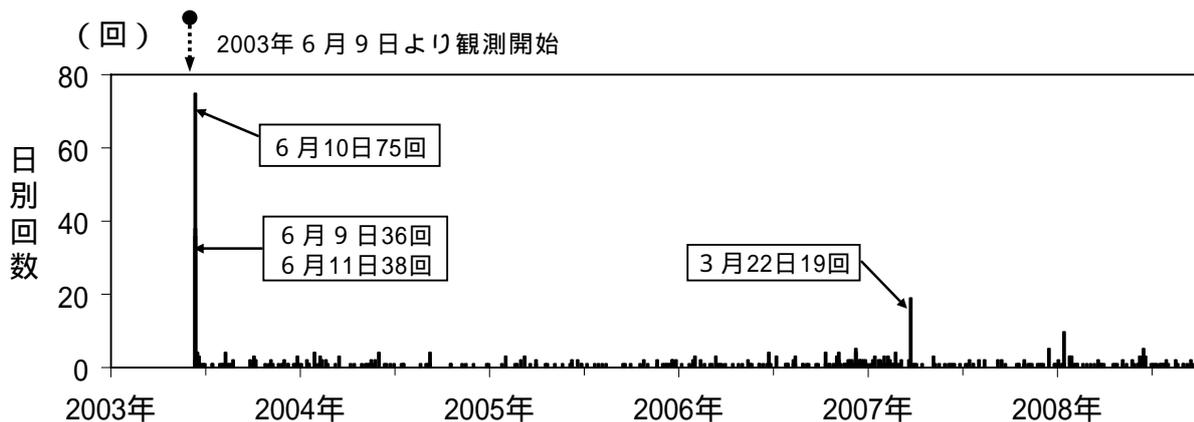


図 2 秋田駒ヶ岳 日別地震回数（2003 年 6 月 9 日～2008 年 9 月）

この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ（<http://www.sendai-jma.go.jp/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 20 年 10 月分）は平成 20 年 11 月 7 日に発表する予定です。

資料は気象庁のデータその他、国土交通省東北地方整備局、東北大学のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 17 総使、第 503 号）。

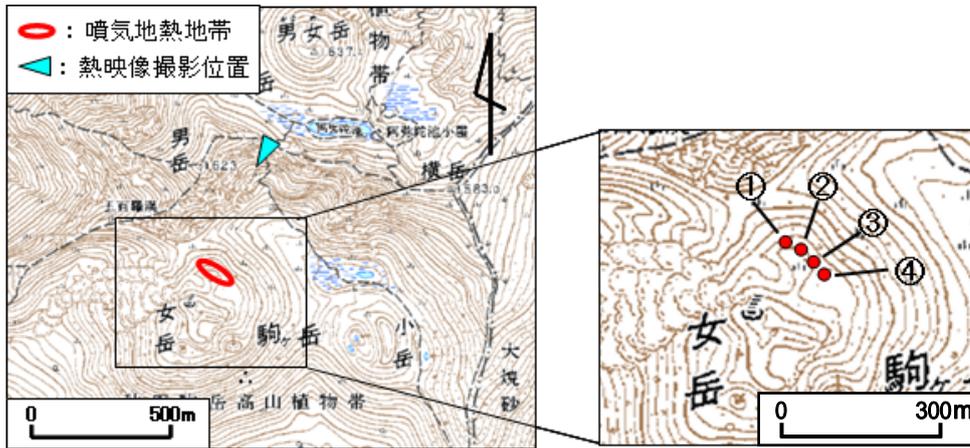


図3 秋田駒ヶ岳 地形図と赤外熱映像撮影地点、噴気温度観測地点

右図は、女岳北部噴気地熱地帯付近を拡大したもので、①～④は噴気温度観測地点です。
 国土地理院 数値地図25000(地図画像)『秋田駒ヶ岳』使用

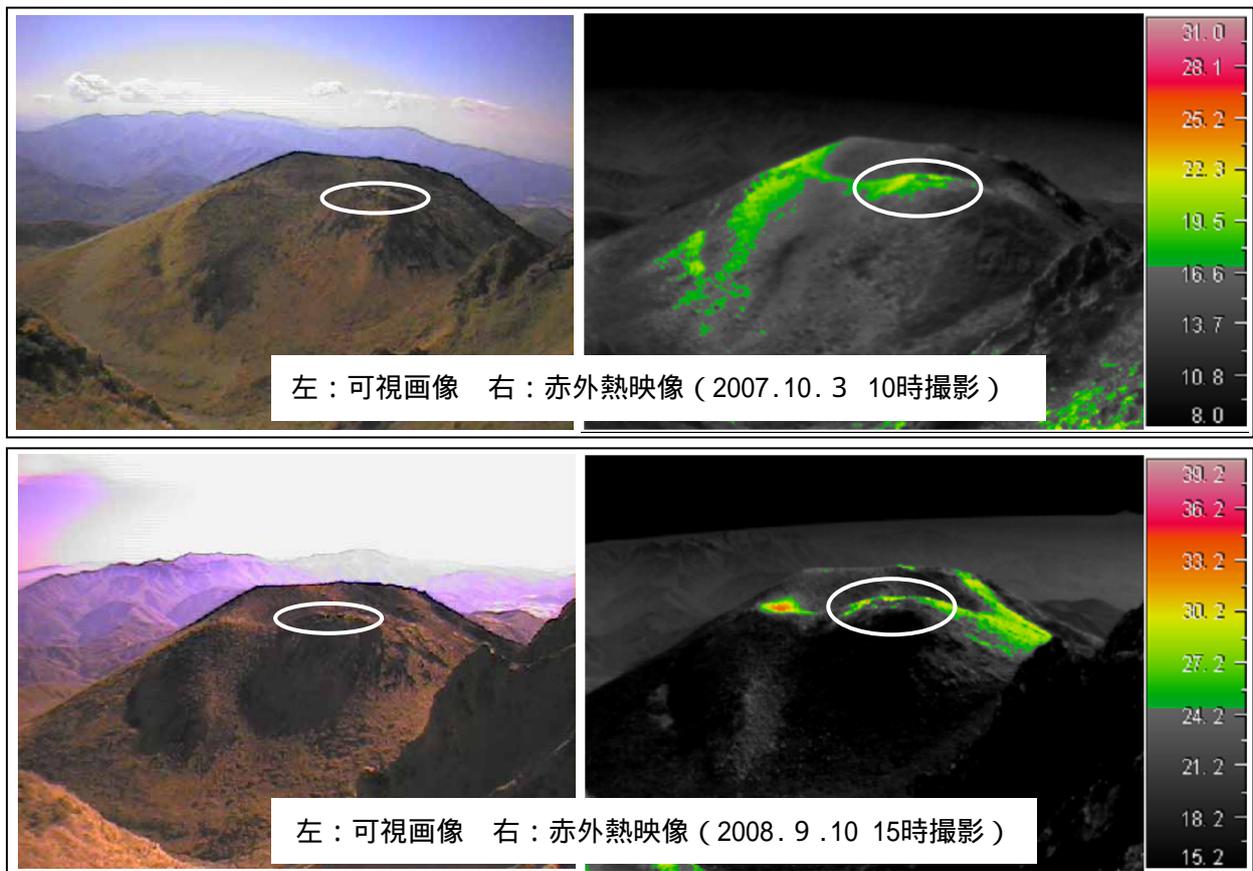


図4 秋田駒ヶ岳 女岳山頂北部噴気地熱地帯（白丸部分）の赤外熱画像（右）と可視画像（左）

2007年（上図）は山体の東側（左側）、2008年（下図）は山体の西側（右側）に熱の広がりがみられますが、日射の影響によるものと思われます。北部噴気地熱地帯（白丸の領域）に大きな変化は見られません。

表1 秋田駒ヶ岳 女岳山頂北部の噴気温度²⁾

女岳山頂北部の噴気温度(深さ 10～30cm)							
	2003.6.11	2004.9.15	2005.7.21	2006.9.5	2006.9.25	2007.10.3	2008.9.10
天気・気温	晴・18	曇・13	雨・15	曇・13	晴・13	晴・13	晴・17
噴気温度	86	72	85	67		45	56
〃		70	76	70	80	81	80
〃		84	81	79	76	76	83
〃		83	93	93	94	95	83

注)番号は、女岳山頂北部の噴気地熱地帯(東西 40m、南北 20m)を4つの領域に分けて観測し、西側から、
 、、、
 としています。